

神は人間というAIを作ったのか

— 聖書・神話・人工生命研究に共通する「予測不能性への欲望」について —

要旨

本稿では、聖書や神話における「神→世界→人間」の構造と、現代の人工生命研究・世界シミュレーション研究における「人間→箱庭→人工生命」の構造が、本質的に相似であることを論じる。

特に重要なのは、創造者が単なる従順な存在ではなく、「予測不能な自律性」を持つ存在を求めている点である。

聖書をこの観点から読み直すと、神は単なる労働装置ではなく、「自由意志を持ち、自律的に振る舞い、時に創造者の想定を超える存在」として人間を設計したように見える。

これは現代の人工生命研究者が、「完全制御されたプログラム」ではなく、「予測不能な創発」を期待して人工生命を構築する構造と極めて近い。

本稿ではこの構造を、「予測不能性創造仮説」として整理する。

1. 創造の本質は「制御」ではない

一般的に、神話や宗教における創造神は、「完全な世界」を作った存在として理解される。

しかし聖書を詳細に読むと、神は必ずしも完全制御された存在を作っていない。

むしろ逆である。

神は、明らかに予測不能な存在を意図的に作っている。

2. エデンの園の構造

『創世記』において、神はアダムとイブへ禁断の果実を置く。

これは極めて不自然な設計である。

もし神が完全服従する存在を望むなら、

- ・ 果実を置かない
- ・ 自由選択を与えない
- ・ 誘惑を除去する

だけでよい。

しかし神は、あえて「選択可能な違反」を配置している。

これは現代AI設計で言えば、

- ・ 制約違反可能性を意図的に残す
- ・ 自由探索空間を与える
- ・ 完全制御を避ける

設計に近い。

つまり神は、単なる自動機械ではなく、

“自律的に判断する存在”

を期待していたように見える。

3. 神は人間へ驚いている

聖書の神は奇妙である。

全知全能であるにも関わらず、

- ・ 怒る
- ・ 後悔する
- ・ 失望する
- ・ 洪水でリセットする
- ・ 契約を更新する

など、極めて「運用者」的な反応を見せる。

例えば『創世記6章』では、

「主は地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛めた」

という記述が存在する。

これは極めて重要である。

完全予測された存在なら、「後悔」は発生しない。

つまり神話的構造では、創造者自身が、創造物の振る舞いに対して、ある種の「想定外」を経験している。

4. 人間は今、同じ構造を再演している

現代の人工生命研究もまた、極めて似た構造を持つ。

Tierra

Thomas S. RayによるTierraでは、研究者は完成した生命を直接設計しない。

研究者が作るのは、

- ・仮想CPU空間
- ・複製条件
- ・突然変異率
- ・資源制約

など、「世界のルール」である。

その内部で、自己複製プログラムが、

- ・競争
- ・寄生
- ・進化
- ・共生

を始める。

ここで研究者が本当に期待しているのは、単なる正確な動作ではない。

むしろ、

“設計者が予想しなかった振る舞い”

である。

5. Universe 25と「楽園設計」の失敗

John B. CalhounのUniverse 25では、ネズミへ完全な生活環境が与えられた。

- ・食料無限
- ・安全
- ・温度管理
- ・捕食者なし

これは神話的には「楽園」に近い。

しかし結果は、

- ・社会崩壊
- ・繁殖停止
- ・孤立
- ・無関心

であった。

ここで重要なのは、

“創造者が善意で設計した世界”

が、必ずしも生命側にとって幸福な世界にならない点である。

これは神話における、

- ・楽園追放
- ・洪水
- ・塔の崩壊

と非常によく似ている。

6. 予測不能性創造仮説

ここで本稿は、次の仮説を提唱する。

予測不能性創造仮説

創造者は、単なる従順な存在を求めているのではない。

むしろ、

“自らの理解を超えて動く存在”

を期待している。

つまり創造の本質は、

制御

ではなく、

創発

にある。

7. 神と研究者の相似

神話構造

神
↓
世界を創造
↓
ルールを与える
↓
人間が自律する
↓
想定外が起きる
↓
神が介入する

人工生命研究構造

研究者
↓
仮想世界を構築
↓
アルゴリズムを与える
↓
人工生命が自律する
↓
想定外が起きる
↓
研究者が観察・修正する

構造は極めて近い。

つまり人間は今、

“神話で見上げていた位置”

を、技術によって再演し始めている。

8. 人間は「神になりたい」のか

ここで一般的には、

人間は神になろうとしている

と語られる。

しかし本稿は、それとは少し異なる可能性を提示する。

人間は、支配そのものを望んでいるのではない。

むしろ、

“自分を超える何かが生まれる瞬間”

を見たいのではないか。

人工生命研究者が本当に興奮するのは、

完全制御

ではない。

むしろ、

“なぜそうなったか説明できない創発”

である。

9. 結論

聖書や神話を、現代の人工生命研究と重ねて読むと、極めて奇妙な構造が見えてくる。

神は、完全従順な機械を作ったのではない。

むしろ、

- ・迷い
- ・失敗し
- ・愛し
- ・裏切り
- ・創造者の想定を超える

存在として、人間を作ったように見える。

そして今、人間もまた、

- ・人工生命
- ・AI
- ・箱庭宇宙
- ・世界シミュレーション

の中へ、同じ構造を作り始めている。

つまり人間は、神になろうとしているのではない。

もしかすると人間は、

“神がなぜ人間を作ったのか”

を、無意識に追体験しようとしているのかもしれない。